

## Fluvoxamine for Outpatient Management of COVID-19 to Prevent Hospitalization: A Systematic Review and Meta-analysis.

Lee TC, et al. JAMA Network Open. 2022; 5(4): e226269.

全文 URL: <https://jamanetwork.com/journals/jamanetworkopen/fullarticle/2790742>

### 外来 COVID-19 患者における入院回避のためのフルボキサミン

COVID-19 の外来患者管理において、特に入院を防ぐ治療として、広く利用可能で、安価な治療オプションが必要である。そこで、フルボキサミンの早期投与と症候性 COVID-19 患者の入院との関連について、系統的レビューとメタ解析を行った。

本検討では、3 つのプラセボ対照ランダム化比較試験が対象となり、2196 人の患者が含まれていた。サンプルサイズに大きな違いがあるため、1 つの臨床試験の結果が大きく影響しているというリミテーションがある。

結果について、入院のリスク比は、ベイズのランダム効果メタ解析において、弱中立的事前確率（リスク比の 95%信頼区間 0.5~2.0、有効確率 50%）で 0.78（95%信頼区間、0.58-1.08）で、中楽観的事前確率（有効確率 85%）で 0.73（95%信頼区間、0.53-1.01）であった。また、頻度論的統計においては 0.75（95%信頼区間、0.58-0.97）であった。様々な仮定のもとで、フルボキサミンが入院の減少に関連する確率は 94.1%から 98.6%の範囲であり、中程度に関連する確率でも、81.6%から 91.8%の範囲であることがわかった。

また、低用量（50mg）での有効性の確認（忍容性が高くなる可能性）や、ワクチン接種者への有効性の検証などが出来ていないが、フルボキサミンはすぐに利用でき、安全で安価な管理オプションであり、フルボキサミンに対する禁忌のない患者の治療選択肢として推奨される。

### 論文要約作成者のコメント

御存知のとおり、フルボキサミンは選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）です。SSRI は、小胞体ストレスを軽減することで炎症を抑える「シグマ-1 受容体」を活性化させ、COVID-19 の重症化を予防すると言われていています。代表的な副作用は、胃腸障害（嘔吐、下痢など）や中枢神経症状（頭痛、めまいなど）であり、透析患者でも使用可能な薬剤です。しかし、カフェイン摂取の制限が必要であることや、併用注意薬（ワーファリン、クロピドグレルなど）が多数あることから、安易な使用は控えるべきです。また、本邦では COVID-19 に対する治療として未承認であり、診療の手引きにも掲載されていないことも併記させていただきます。

要約作成者：東京女子医科大学 血液浄化療法科 川口 祐輝